

時軍新報

外國の仲裁と内國の平和説

今回の戦争に付き近來又外國仲裁云々の説あり事實無根の風説に相違なければも畢竟かゝる風説の生ずるは世間の執着が動すれば外國人の舉動を皮相して其心事を誤解するが爲めなれば愛に一言して彼等の疑惑を解くも自から亦無益の談に非ざる可し抑も日清の戦争は東洋の商賣貿易に非常の影響を及ぼして外國商人の利害を痛感せしむるものと大ならば彼等の身を爲りて考ふれば素より戦争を好まず有之を避くるの道あるに於ては百万、力を盡して平和の手段を試みるるを當然のものとされ既に今度も未だ開戦に至らざる其前に於ては外國より申込にて和解を試みしは實際の事實なれども其事行はれずして遂に戦を見てたるとなれば今更ら然りとて同様の申込も再びするの理由はあ可らず且今度の事なる理非曲直既に分明にして勝敗の數も亦論議を俟たず全局の趨勢、我國に在るは公平の視より見て何人も争を容れざる所なれば若し此際仲裁を試みて平和の局を結ばしむるときは其成行は恰も日本の不利を顧みずして専ら支那人の爲めに成るもの異なるらず新の仲裁は到進行はれざる相續にして強ひて之を試みんとすれば力を以て干渉するの外に手段なきとされれば此一點に至りては外國人も自かも自國の爲めに謀りて大に考ふる所なきを得ず戦争の爲めに商賣を害するの害は大なればも一時の風波にして忽ち平和回復の幸を得つ可きと然るに其一時を專ら強ひて強ひて結局の遠ならんと欲し或は力を以て干渉するが如きは交戦國の一方を敵にするの愚態を以て始めて斷行す可き大事なり東洋の政局に干渉する日本國に結ぶの愚を爲さざるは我輩の斷じて信する所なり且我國の爲めに非ず文明國自家の利害に訴へて深く自かも重んず可き所のものなればなり在れば外國仲裁の試は目下東洋の情勢に於て決して行はる可らざるものとて我輩の専ら懸念に堪へざるは内國に於ける平和説の發生なり毎度紙上にも述べたる如く目下商賣社會以外國の弊に影響せられて次第に不景氣を呈せし株式市場の如きも殆んど恐慌の有様を呈し今も昨今の處にては其不景氣も更に人氣の爲めにして實際には甚だしく苦痛なればも今後戦争の永續するは從ひいよく商況復舊の望を現はすに至るときは實に人命として目下の苦痛に堪へず誰れ言ふとなく自然に平和説の發生す可きは我輩の今より警告して殆んど疑はざる所なり外國の専らに内より平和説を唱ふるは恐らく支那に對しは我輩の懸念するものにして國家の不測のみか平和論者も自かも重んず可き所か察しむ所か可らず其試に見よ外征の軍人が勇進奮戦するは日本國の國體を損傷せんが爲めなり即ち内にては同胞兄弟の殺戮の爲めに其生命を棄てて、顧みざる者なり然るに其内に在る者が萬々一も勇を以て他に商賣不振の弊を糾正するを得るる如くならずして日本國の利益に於て損つ可きに非ずや其のみならず其不知者も多し一時の事にして戦後の結果を視れば前途

の多量想像の限りに非ず本年の末か曉くも明年春夏の頃目下度々觀望の隙には日本國の名譽を世界に發揚すると同時に商賣貿易の發達は昌は非常にして戦中一時の苦痛は夢の醒めたると同様、全く痕なきに至る可し要は唯暫く辛抱して餓の事を忘るゝに在るのみ若しも然らず憂々たる苦情の爲めに内にて平和の説を生じて外國の仲裁をして其機會に乗せしむるが如きものとあらんには大日本國の名譽を如何せん我輩は今度の外戰を我開關以來空前の一大事として平和説の發生を戒防せんと欲する者なり

雜報

● 裁任辭令
任東京第三高等警察官(候補) 二階堂 警部
任東京第三高等警察官(候補) 二階堂 警部
任東京第三高等警察官(候補) 二階堂 警部

文

● 來る十二三日
● 新聞原稿檢閲の廢止

Japan Need Not Hesitate.
Attempts are being made by some of the European Powers to bring about arbitration between Japan and China in the Korean question. Japan would be extremely foolish to listen to such suggestions, which are made entirely in the interest of China.

● 清滯外債
● 戦地より
● 皇太后御遺體の奉安

時軍新報
山縣大將遺體奉安
大日本帝國陸軍大臣 乃木希典
大日本帝國海軍大臣 東郷平八郎